

II 地域包括ケアの推進における歯科保健医療対策



現状

- ・訪問歯科診療を実施するため、実施基準届出を行っている歯科診療所は増加しているが、地域差がある。
- ・地域包括ケアの推進に伴い、訪問歯科診療実施件数が増加



対策

- ・在宅歯科医療の推進
- ・地域ケア会議への歯科専門職の参加を推進
- ・歯科医療従事者の在宅歯科医療への対応力向上 など

III 医科歯科連携の推進

現状

- がん治療と口腔健康管理**
 - ・がん患者に対し口腔健康管理の重要性を啓発している医療機関は1割程度
- 歯周病治療と糖尿病重症化予防**
 - ・糖尿病患者のうち歯科医療機関を受診した者の割合は半数程度。歯周病と糖尿病等の全身疾患が関連していることについて、県民の半数程度にしか認知されていない。

対策

- がん治療と口腔健康管理
 - ・がん治療時における医科歯科連携の必要性について啓発
- 歯周病治療と糖尿病重症化予防
 - ・医歯薬が連携した歯周病予防の啓発 など



項目	現在の値 (R2年度)	目標値
糖尿病患者のうち歯科医療機関を受診した者の割合 (30-75歳)	48.9%	53%以上

IV 災害時歯科保健医療対策



現状

- ・高知県災害時歯科保健医療対策活動指針及び具体的な活動指針となるアクションカードを作成したが、実効性を高める訓練や研修はできていない。
- ・災害時の歯科保健医療活動に必要な機器や医薬品等を整備

対策

- ・活動指針に基づき歯科医療関係団体の連携を強化し、研修や訓練を実施し、災害時の対応力を向上
- ・災害時に歯科保健医療活動を円滑に行うため、継続的な指針の見直し など



V その他の歯科保健医療対策

現状

- へき地の歯科保健医療対策
 - ・鶴来島へ年2回歯科診療班を派遣
- 休日等の歯科救急医療
 - ・休日等における歯科の救急患者の医療を確保
- 虐待対策
 - ・児童虐待相談対応件数の増加
- 歯科専門職の人材育成等支援
 - ・歯科医療関係者に対し研修会を実施
 - ・高知県歯科衛生士養成奨学金制度による、歯科衛生士を目指す学生の修学支援 など

対策

- へき地の歯科保健医療対策
 - ・へき地での歯科医療体制の維持
- 休日等の歯科救急医療
 - ・関係団体による休日の救急診療の運営等を支援
- 虐待対策
 - ・虐待が疑われる児童の早期発見・早期対応ができるよう知識の普及
- 歯科専門職の人材育成等支援
 - ・研修会を継続し、県内歯科医療水準の維持向上
 - ・歯科衛生士等の確保 など



第3期高知県歯と口の健康づくり基本計画 概要版

(計画期間：令和4年度～8年度)

高知県歯と口の健康づくり基本計画作成の趣旨

高知県では、平成23年4月に施行した高知県歯と口の健康づくり条例に基づき、歯科保健医療対策を推進しています。このたび、平成29年度から5年間取り組んできた「第2期高知県歯と口の健康づくり基本計画」を評価し、これまでの取り組みを通じた課題や、新たに生じた課題、現状を分析するとともに、「第3期高知県歯と口の健康づくり基本計画」を策定しました。

第2期基本計画の評価

○第2期計画(H29-R3)の指標について、策定時の状況と比較し達成状況等について評価をしました。

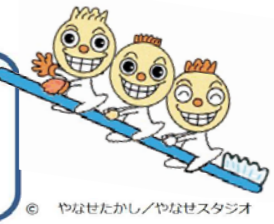


第2期計画の評価を踏まえ第3期計画で取り組むポイント



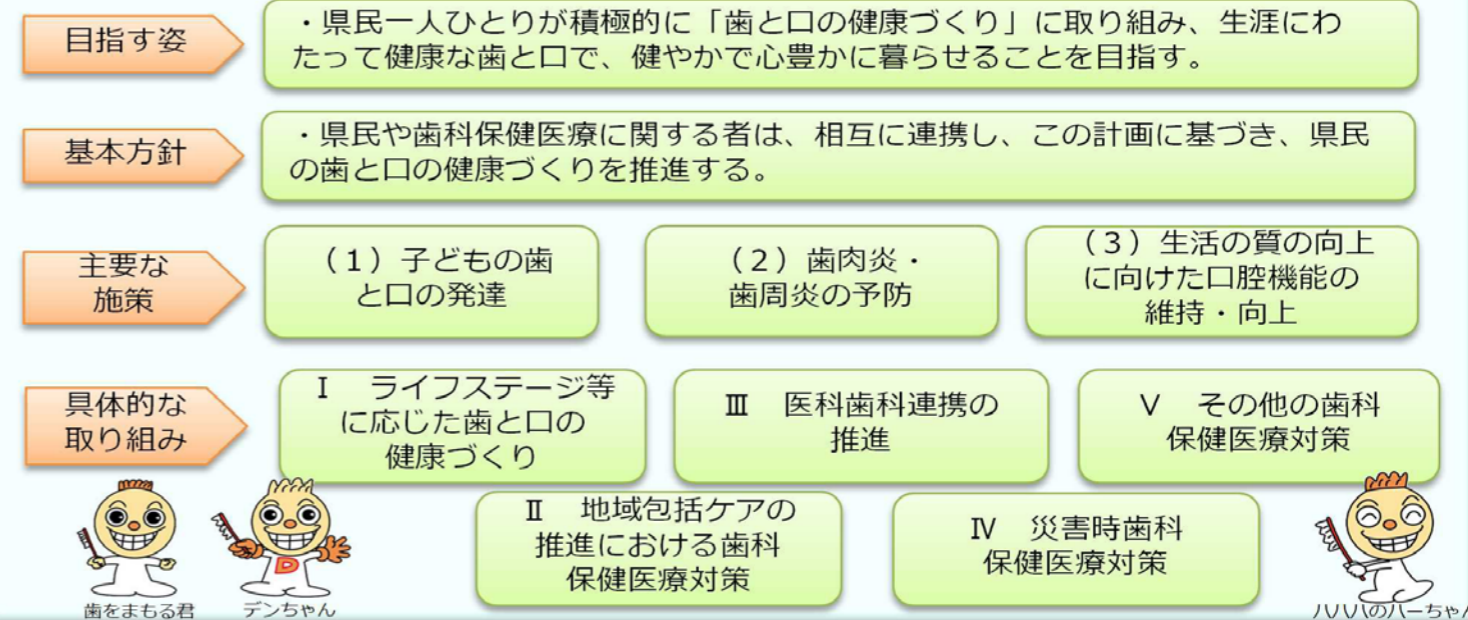
© やなせたかし/やなせスタジオ

- 子どもの頃からの口腔機能向上及びむし歯・歯肉炎の予防
- 歯周病予防対策の推進
- オーラルフレイル対策の推進



© やなせたかし/やなせスタジオ

第3期基本計画の基本的な方向性



© やなせたかし/やなせスタジオ



© やなせたかし/やなせスタジオ

I ライフステージ等に応じた歯と口の健康づくり

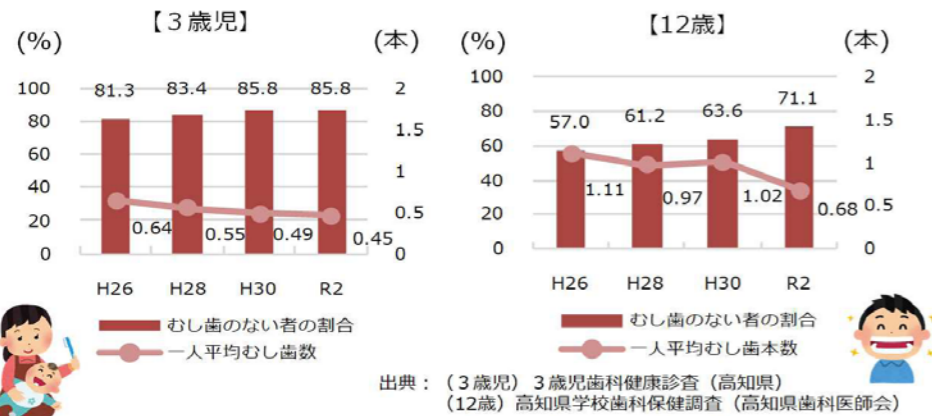
子どもの歯と口の発達

離乳食の段階から適切な口腔機能の獲得のために、噛む力や飲み込む力を育成し、歯みがきの習慣化等の基本的な歯科習慣を身につけることが重要です。

現状

一人平均むし歯数やむし歯のない者の割合は、3歳児、12歳ともに改善傾向となっています。

3歳児、12歳の一人平均むし歯数とむし歯のない者の割合



フッ化物洗口を実施する施設は、全体の64%です。

フッ化物洗口実施施設数の推移(保・幼・小・中等)



対策

〈乳幼児期〉

- 保護者等に対して、乳幼児の歯・口腔機能の適切な発達のための支援を強化
- 定期的な歯科健診やフッ化物歯面塗布を受けることを推進

〈学齢期〉

- 噛むことの大切さと望ましい食事等について啓発
- フッ化物洗口の推進

目標

項目(抜粋)	現在の値(R2年度)	目標値
保護者が仕上げみがきをしている割合 1歳6か月児	74.8%	80%以上
むし歯のない3歳児の割合	85.8%	92%以上
12歳児でのむし歯のない者の割合	71.1%	80%以上

歯肉炎・歯周炎の予防

歯周病は全身疾患(糖尿病や脳血管疾患、早産等)に影響を及ぼすため、早期発見・早期治療が重要です。

現状

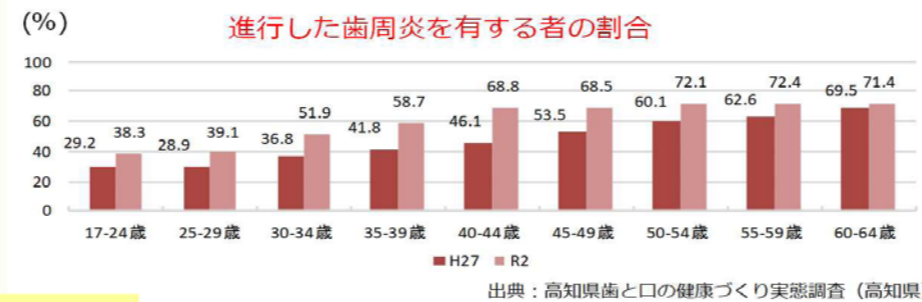
12歳及び17歳では4人に一人が歯肉炎を有しています。

12歳、17歳で歯肉に炎症所見を有する者の割合



進行した歯周炎を有する者の割合は、各年代で増加しています。

進行した歯周炎を有する者の割合



対策

〈妊娠期〉

- 市町村や産婦人科と連携した妊娠中の口腔管理についての啓発

〈学齢期〉

- 口腔清掃の指導等望ましい生活習慣の定着を推進

〈成人期〉

- 歯周病予防の重要性や定期的な歯科健診受診、全身疾患との関連性等の啓発
- 事業所での歯科保健指導の実施

目標

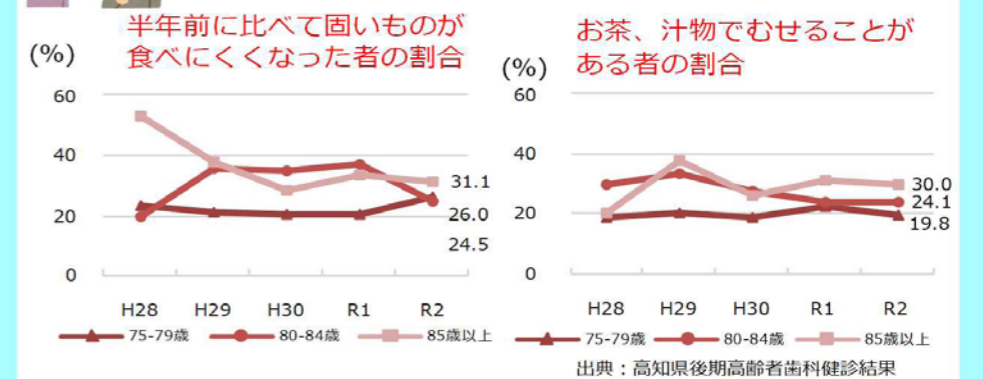
項目(抜粋)	現在の値(R2年度)	目標値	
歯肉に炎症所見を有する者の割合 12歳	27.0%	20%以下	
進行した歯周炎(4mm以上の歯周ポケットあり)を有する者の割合	40歳代	68.7%	50%以下
	60歳代	72.1%	65%以下
60歳で自分の歯を24本以上有する者の割合	70.1%	80%以上	

生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上

口腔機能の低下は、食べる機能の障害や全身的な機能低下につながるため、口に関するささいな衰えを放置しないことが重要です。

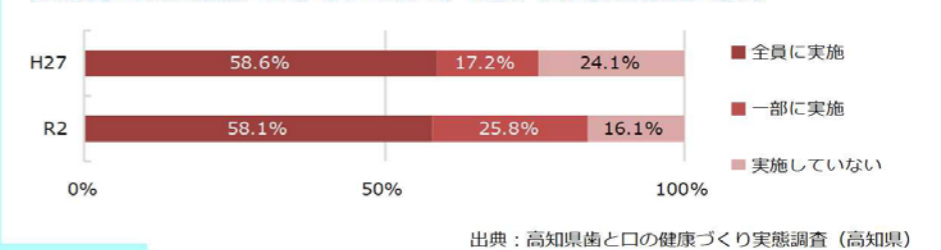
現状

後期高齢者歯科健診受診者の20~30%が、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」、「お茶、汁物でむせることがある」といったオーラルフレイルの症状を自覚しています。



障害(児)者入所施設のうち、年に1回以上定期的な歯科健診を実施している施設は増加しています。

定期的な歯科健診をしている障害(児)者入所施設の割合



対策

〈高齢期〉

- 口腔機能向上プログラムの普及啓発
- 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における通いの場の取り組みを強化
- オーラルフレイル予防複合プログラム※の実践

〈障害(児)者〉

- 関係団体と連携し、地域の医療機関においても障害(児)者歯科診療を実施できる連携システムを構築

※運動、栄養、口腔体操、噛みごたえのある食事、社会参加を組み合わせたプログラム

目標

項目(抜粋)	現在の値(R2年度)	目標値
半年前に比べて固いものが食べにくくなった者の割合(75-79歳)	26.0%	15%以下
お茶、汁物でむせることがある者の割合(75-79歳)	19.8%	15%以下
定期的な歯科健診を全員または一部に実施している障害(児)者入所施設の割合	83.9%	90%以上